

仙台製油所の高付加価値化について ～第3次連結中期経営計画の大型設備投資～

記者各位

当社(社長:渡 文明)は、石油精製部門である新日本石油精製株式会社(社長:小沢 稔)の仙台製油所(所長:和田 昭二)において、高付加価値型製油所の実現を目指し、石油化学製品の増産と副生ガスを利用した高効率発電設備を建設することを決定しましたので、お知らせいたします。

当社グループは、今後、中国を中心に石油化学品需要がますます拡大することが見込まれるアジア市場をにらみ、第3次連結中期経営計画において、CRI(Cheical Refinery Integration: 石油精製と石油化学の一体化)を推進していく事業戦略を策定しております。

今回の石油化学製品の増産は、その一環として、特に需要の増加が見込まれるプロピレンとキシレンの増産設備を建設し、仙台製油所の設備高度化をとり進めるものです。これにより、製品の高付加価値化および製油所の効率化を図ってまいります。

また、この高度化設備から発生する副生ガスを燃料とした高効率発電設備を設置することにより、製油所の自家使用電力をまかなうとともに、発電余力を利用した電気小売(PPS)事業についても検討してまいります。

記

1. プロジェクトの概要

- (1) 製油所所在地 宮城県仙台市宮城野区港五丁目1番1号
- (2) 設備建設予定地 宮城県宮城郡七ヶ浜町(仙台製油所内)
- (3) 設備投資額 約600億円
- (4) 運転開始時期 2007年度目標
- (5) 新設装置概要

装置名称	生産品	生産能力
連続触媒再生式プラットフォーミング装置	キシレン*	30万トン/年
ベンゼン抽出装置	ベンゼン	6万トン/年
プロピレンスプリッター装置	プロピレン	10万トン/年
ガスタービン発電設備	電力	約10万kW

※ パラキシレンの増産に貢献

2. 第3次連結中期経営計画

当社グループは、第3次連結中期経営計画にて、プロピレンで80万トン/年、パラキシレンで140万トン/年を目標としております。今回の高度化計画の実施後も、この目標の達成に向け更に努力してまいります。

以上

 『仙台製油所概要』(PDF:13KB)

 『新日本石油精製株式会社概要』(PDF:13KB)